

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科:「国語科」科目:「国語総合（現代文）」 年間授業計画

教科:国語科 科目:国語総合（現代文） 単位数:2単位

対象学年組:（第1学年A組～F組）

教科担当者:（依田 詩織:B、C、E）（小森 真理子:A、D、F）

使用教科書:（『国語総合 改訂版』 筑摩書房）

使用教材:（『カラー版 新国語便覧』 第一学習社、『セレクト漢字検定5級-2級』（桐原書店））

|     | 指導内容                       | 科目「国語総合（現代文）」の具体的な指導目標                                                                        | 評価の観点・方法             | 予定<br>時数 |
|-----|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------|
| 4月  | ・随想『ある時間、待ってみてください』他       | ・筆者の主張を捉えさせ、数学の例から人生の「難しい問題」に直面する局面の話へと展開される比喻表現を理解させる。<br>・人生において「ある時間、待ってみる」ことの意味について考えさせる。 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 2        |
| 5月  | ・小説一『羅生門』他                 | ・文脈の中でことばの意味を類推し、読み手として小説に参加する楽しみを味わう。<br>・登場人物の心理を表現に即して読み取り、自らの生き方と照らし合わせる。                 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 6        |
| 6月  | ・小説一『羅生門』他                 | ・文脈の中でことばの意味を類推し、読み手として小説に参加する楽しみを味わう。<br>・登場人物の心理を表現に即して読み取り、自らの生き方と照らし合わせる。                 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 8        |
| 7月  | ・評論一『水の東西』他                | ・文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的思考を養う。<br>・筆者の主張に対し、自分なりの意見をもつ。                         | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 2        |
| 9月  | ・評論二『話を複雑にすることの効用』他        | ・文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的思考力を養う。<br>・筆者の主張に対し、自分なりの意見をもつ。                        | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 4        |
| 10月 | ・小説二『清兵衛と瓢箪』他              | ・作品の背景にある時代状況や、非日常的な世界を理解しながら人物の心理や情景描写を読み味わう能力を習得する。<br>・作者についての知識を身につけ、関連作品や同時代の作家への関心を高める。 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 6        |
| 11月 | ・随想『虹の雄雄』他<br>・評論三『考える身体』他 | ・文章の構成を理解し、筆者独自の発想の面白さを捉えさせる。<br>・文章の構成を理解し様々な二項対立を整理するとともに、自らの生活における『身体』について考える。             | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 8        |
| 12月 | 短歌・俳句『恋の歌を詠む』他             | ・日本の伝統的な短詩形である短歌・俳句についての知識を深めるとともに、その表現についての理解を深める。<br>・短歌や俳句に親しもうとする姿勢を養う。                   | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 8        |
| 1月  | 評論四『情報が世界を動かす』他            | ・文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的思考力を養う。<br>・筆者の主張に対し、自分なりの意見をもつ。                        | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 0        |
| 2月  | ・小説三『セメント樽の中の手紙』           | ・小説の構成を整理するとともに、時代背景を理解する。<br>・登場人物の心情の変化を捉えるとともに、小説の続きを想像する。                                 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 0        |
| 3月  | 詩『二十億光年の孤独』他               | ・詩を味読することによって言語感覚を磨き、豊かな感受性を養う。                                                               | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 0        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科：「国語」科目：「国語総合a」 年間授業計画

教科：国語 科目：国語総合a 単位数：2単位

対象学年組：（第1学年A組～F組）

教科担当者：（小森真理子・A, D, F）（依田詩織・B, C, E）

使用教科書：（国語総合改訂版（筑摩書房））

使用教材：（カラー版新国語便覧（第一学習社））

|     | 指導内容                          | 科目「国語総合a」の具体的な指導目標                                                                                                            | 評価の観点・方法             | 予定<br>時数 |
|-----|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------|
| 4月  | 随想『ある時間、待っててください』他            | ・実体験や身近な風物から導き出される問題提議の意外性と、それに関する考察の展開の妙とを味わう。<br>・概念の区分け、空白部分の読み取りなどの方法を習得する。                                               | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 1        |
| 5月  | 評論一『水の東西』他                    | ・文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的思考を養う。<br>・筆者の主張に対し、自分なりの意見をもつ。                                                         | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 4        |
| 6月  | 小説一『羅生門』他                     | ・文脈の中でことばの意味を類推し、読み手として小説に参加する楽しみを味わう。<br>・登場人物の心理を表現に即して読み取り、自らの生き方と照らし合わせる。                                                 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 8        |
| 7月  | 小説一『羅生門』他                     | ・文脈の中でことばの意味を類推し、読み手として小説に参加する楽しみを味わう。<br>・登場人物の心理を表現に即して読み取り、自らの生き方と照らし合わせる。                                                 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 2        |
| 9月  | 評論二『話を複雑にすることの効用』他            | ・文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的思考力を養う。<br>・筆者の主張に対し、自分なりの意見をもつ。                                                        | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 5        |
| 10月 | 小説二『清兵衛と瓢箪』他                  | ・作品の背景にある時代状況や、非日常的な世界を理解しながら人物の心理や情景描写を読み味わう能力を習得する。<br>・作者についての知識を身につけ、関連作品や同時代の作家への関心を高める。                                 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 7        |
| 11月 | 評論三『言語と文化』他<br>短歌・俳句『恋の歌を読む』他 | ・文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的思考力を養う。<br>・筆者の主張に対し、自分なりの意見をもつ。<br>・日本の伝統的な短詩形である短歌・俳句についての知識を深めるとともに、その表現についての理解を深める。 | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 8        |
| 12月 | 短歌・俳句『恋の歌を読む』他                | ・日本の伝統的な短詩形である短歌・俳句についての知識を深めるとともに、その表現についての理解を深める。<br>・短歌や俳句に親しもうとする姿勢を養う。                                                   | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 4        |
| 1月  | 評論四『情報が世界を動かす』他               | ・文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的思考力を養う。<br>・筆者の主張に対し、自分なりの意見をもつ。                                                        | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 4        |
| 2月  | 評論五『ホンモノのおカネの作り方』他            | ・文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につけ、論理的思考力を養う。<br>・筆者の主張に対し、自分なりの意見をもつ。                                                        | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 7        |
| 3月  | 詩『二十億光年の孤独』他                  | ・詩を味読することによって言語感覚を磨き、豊かな感受性を養う。                                                                                               | 小テスト・定期考査・提出物・授業への参加 | 4        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成30年度 教科:「公民」科目:「現代社会」 年間授業計画

教科:公民 科目:現代社会 単位数:2単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(玉城):(堀):(堀):(堀):(玉城):(堀):

使用教科書:(実況出版『最新現代社会 新訂版』)

使用教材:(帝国書院ライブ!現代社会2019)

|     | 指導内容                                                                              | 科目「現代社会」の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                    | 評価の観点・方法                                                                                                            | 予定<br>時数 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4月  | 第2部 現代の社会と人間<br>2. 現代民主政治と日本国憲法<br>・日本の政治機構と政治参加<br>・民主政治の基本原則                    | ・政治参加の重要性と民主社会において、自ら生きる倫理について自覚を深めさせ、主権者としての意識を身に付ける。<br>・政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深め、主権者としての意識を身に付ける。                                                                                                        | ・現代政治への関心が高まり、主権者意識が身に付いている。<br>・主権者として憲法成立過程と基本的人権、平和主義の内容を意欲的に追求しようとしている。                                         | 4        |
| 5月  | 第2部 現代の社会と人間<br>2. 現代民主政治と日本国憲法<br>・法の支配<br>・民主政治のしくみ<br>・世界の政治制度<br>・日本国憲法の基本的性格 | ・民主政治における個人と国家について考察する。<br>・政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深め、主権者としての意識を身に付ける。<br>・日本国憲法の成立過程及び日本国憲法に定める基本的人権の保障、平和主義について理解を深める。                                                                                     | ・人権問題、安全保障を多面的・多角的に考察し、結果と根拠を様々な方法で表現している。<br>・人権や安全保障の時事的な自称を収集し、適切に活用できる。                                         | 6        |
| 6月  | 第2部 現代の社会と人間<br>2. 現代民主政治と日本国憲法<br>・日本国憲法の基本的性格                                   | ・日本国憲法の成立過程及び日本国憲法に定める基本的人権の保障、平和主義について理解を深める。<br>・生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察する。<br>・日本の安全を守る安全保障政策について理解するとともにこれからの防衛政策について考察する。<br>・日本の行政、立法、司法制度について理解を深める。<br>・民主政治における個人と国家について考察する。                    | ・憲法が普遍性を持つこと気づき、人権が生まれながらの権利であること、他者の権利の尊重を理解、知識を身に付けている。<br>・平和主義、安全保障について理解、その知識を身に付ける                            | 9        |
| 7月  | 第2部 現代の社会と人間<br>2. 現代民主政治と日本国憲法<br>・日本国憲法の基本的性格                                   | ・民主政治における個人と国家について考察する。<br>・法や規範の意義や役割について理解を深め、法意識を高める。<br>・地方自治の意味を理解する。                                                                                                                                           | ・政治について考察し、政治の在り方を公正に判断し、その結果を適切に表現している。<br>・主権者として判断に必要な情報を適切に選択し、活用している。<br>・日本の政治制度について理解し、その知識を身に付けて            | 4        |
| 9月  | 第1部 わたしたちの生きる社会<br>1. 地球環境問題<br>2. 資源・エネルギー問題<br>3. 生命科学と情報技術の課題                  | ・現代社会における諸課題、特に生命、情報、環境を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤としての幸福、正義、公正などの枠組みについて理解する。<br>・生命、情報、環境などを中心に現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚する。<br>・生命、情報、環境などを中心とした現代の諸課題をどのように解決するのか、どうあるべきか、自分なりの考えを持つ。<br>・生涯における青年期の意義を理解する。 | ・現代社会の諸課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、自己の生き方と関連させながら考察しようとしている。<br>・現代社会の諸課題について、幸福、正義、公正などの観点から多面的多角的に考察し、いかに生きるかについて     | 4        |
| 10月 | 第2部 現代の社会と人間<br>1. 青年期と自己の形成<br>・自分らしく生きる<br>・人間としてよく生きる<br>・日本人としての自覚            | ・自己理解を進め、自己形成の課題を考察し、勤労観・職業観を含め、どのように社会参加を果たしていくのか、など自らの人間としての在り方生き方について考察する。<br>・伝統や文化が日常生活に与える影響に着目し、現代社会における青年の生き方について自覚を深める。                                                                                     | ・自己形成の課題を意欲的に追究し、自己の生き方について考察しようとしている。<br>・自己形成や生き方について、幸福、正義、公正などを用い多面的多角的に考察、その過程や結果を適切に表現している。<br>・諸資料をメディアを通して  | 7        |
| 11月 | 3. 現代の経済社会と国民生活<br>・現代の経済社会<br>・日本経済の特質と国民生活                                      | ・現代の経済社会の変容について理解を深める。<br>・市場機構の機能と限界を理解させ、市場の問題点を考察する。<br>・個人や企業の経済活動における役割と責任について考察する。<br>・経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察する。<br>・政府の役割と財政、租税、金融について理解を深めさせ、日本の経済政策の方向性を考察する。                                           | ・現代の日本経済の動向や雇用・労働、環境、社会保障に対する関心が高まり、経済社会の一員の意識が身に付いている。<br>・経済の特質、経済政策、消費者、労働、社会保障などについて多角的多角的に考察し、様々な立場に立つて公正      | 9        |
| 12月 | 3. 現代の経済社会と国民生活<br>・日本経済の特質と国民生活                                                  | ・日本経済の現状がどのように成り立っているのか理解を深める。<br>・日本経済の現状がどのように成り立っているのか理解を深める。<br>・日本の雇用、労働、社会保障について理解を深めるとともに今後の在り方について考察する。                                                                                                      | ・日本経済の課題に関する時事的現象の情報を様々なメディアを通して収集している。<br>・市場、政府の経済活動、雇用・労働、社会保障、公害などについて理解し、その知識を身に付けている。                         | 6        |
| 1月  | 3. 国際社会と人類の課題<br>・国際政治の動向<br>・国際経済の動向と国際協力                                        | ・グローバル化が進展する国際社会の政治の動向を理解する。<br>・国際法の意義、人権・民族問題、核兵器と軍縮について理解する。<br>・国際社会における日本の果たすべき役割や生き方を考察する。<br>・国際社会における貧困や格差について理解する。<br>・先進国日本の国際社会で果たすべき役割について考察する。                                                          | ・国際政治、国際経済への関心が高まっている。<br>・国際政治、国際経済の課題を多面的多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・国際政治、国際経済の時事的現象の情報を適切に選択し、活用している。         | 6        |
| 2月  | 第3部<br>共に生きる社会をめざして                                                               | 持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を追求する活動を通して、現代社会に対する理解を深めるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深める。                                                                                                                                 | ・持続可能な社会の形成に対する関心を高める。<br>・持続可能な社会に参画するという観点の課題を多面的多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・課題を探究するのに必要な情報を適切に選択し、効果的に活用している。 | 6        |
| 3月  | 第3部<br>共に生きる社会をめざして                                                               | 持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を追求する活動を通して、現代社会に対する理解を深めるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深める。                                                                                                                                 | ・持続可能な社会の形成に対する関心を高める。<br>・持続可能な社会に参画するという観点の課題を多面的多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・課題を探究するのに必要な情報を適切に選択し、効果的に活用している。 | 4        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科:「数学」科目:「数学Ⅰ」 年間授業計画

教科:数学 科目:数学Ⅰ 単位数:3単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(喜久川:F,D)(今関:G,E)(松本:A)(磯部:B)

使用教科書:(新編数学Ⅰ(数研出版))

使用教材:(3 TRIAL 数学Ⅰ+A(数研出版))

|     | 指導内容       | 科目「数学Ⅰ」の具体的な指導目標                                                                        | 評価の観点・方法                    | 予定<br>時数 |
|-----|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|----------|
| 4月  | 整式の加法と減法   | 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 6        |
| 5月  | 整式の乗法、因数分解 | 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 12       |
| 6月  | 1次不等式      | 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 12       |
| 7月  | 命題と条件      | 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 9        |
| 9月  | 2次関数       | 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係やその変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できる場にする。           | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 12       |
| 10月 | 2次関数、2次方程式 | 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係やその変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できる場にする。           | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 12       |
| 11月 | 2次不等式      | 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係やその変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できる場にする。           | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 12       |
| 12月 | 三角比        | 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。                  | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 9        |
| 1月  | 三角比        | 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。                  | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 12       |
| 2月  | 三角形への応用    | 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。                  | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 12       |
| 3月  | データの分析     | 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。                                       | 関・見・技・知<br><br>小テスト<br>定期考査 | 9        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成30年度 教科：「数学」科目：「数学A」 年間授業計画

教科：数学 科目：数学A 単位数：2単位

対象学年組：（第1学年A組～F組）

教科担当者：（今関：AB  $\alpha$ , CD  $\beta$ , EF  $\alpha$ ）（喜久川：AB  $\beta$ , CD  $\alpha$ ）（磯部：AB  $\gamma$ , EF  $\gamma$ ）（松本：CD  $\gamma$ , EF  $\beta$ ）

使用教科書：（新編数学A（数研出版））

使用教材：（S TRIAL 数学I+A（数研出版））

|     | 指導内容        | 科目「数学A」の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 評価の観点・方法                                              | 予定<br>時数 |
|-----|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------|
| 4月  | 第1章 場合の数と確率 | 第1節 場合の数<br>・条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。<br>・集合の特徴によって、要素を列挙する方法と要素の満たす条件を示す方法を使い分けて、集合を表すことができる。<br>・ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。<br>・2つの集合の関係を、記号を用いて表すことができる。<br>・空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。<br>・ド・モルガンの法則を理解している。<br>・3つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 3        |
| 5月  | 第1章 場合の数と確率 | 第1節 場合の数<br>・集合の要素の個数の公式を利用できる。<br>・ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。<br>・具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる。<br>・集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。<br>・1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 7        |
| 6月  | 第1章 場合の数と確率 | 第1節 場合の数と確率<br>・事象に応じて、和の法則、積の法則を使い分けて場合の数を求めることができる。<br>・自然数の正の約数の個数を数えること、式の展開を利用して約数の和が求められることに興味を示す。<br>・樹形図を利用して、積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。<br>・順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。<br>・順列の総数や階乗を記号で表し、それを活用できる。<br>・特殊な条件が付く順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。<br>・順列に条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。<br>・順列の問題で、重複して数えないための処理ができる。<br>・順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。<br>・既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。<br>・ものを並べる場合以外でも、重複順列の考え方を活用して処理することができる。<br>・具体的な問題に対して、どのような場合に、円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めて、それらの公式を使うことができる。                                                   | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 8        |
| 7月  | 第1章 場合の数と確率 | 第1節 場合の数と確率<br>・順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。<br>・既知の順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。<br>・組合せの用語、記号、公式を理解し、それを利用できる。<br>・具体的な問題に対して、組合せの考えを利用して式に表すことができる。<br>・特殊な条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。<br>・組合せの考え方を活用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。<br>・組合せに条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。<br>・組分けの総数を求めることができる。<br>・同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。<br>・同じものを含む順列の総数を求めることができる。<br>・重複組合せについて理解し、その総数を求めることができる。                                                                                                                                                 | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 4        |
| 9月  | 第1章 場合の数と確率 | 第2節 確率<br>・くじを引くことを何回も繰り返す実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。<br>・試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考えることができる。<br>・試行の結果の事象を集合として表すことができる。<br>・確率の意味、試行や事象の定義を理解している。<br>・確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。<br>・不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに、数量的にとらえ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 6        |
| 10月 | 第3章 整数の性質   | 第2節 確率<br>・試行が独立か、独立でないかを判断できる。<br>・独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。<br>・独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。<br>・独立な試行の定義を理解し、その確率の求め方がわかる。<br>・複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。<br>・具体的な事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。<br>・既習の確率の知識を利用して、反復試行の確率について考えることができる。<br>・反復試行の意味を理解し、その確率の求め方がわかる。<br>・条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。<br>・条件付き確率を、記号を用いて表すことができる。<br>・条件付き確率の式から確率の乗法定理の等式を導くことができる。<br>・確率の乗法定理を用いて2つの事象がともに起こる確率が求められる。<br>・加法定理、乗法定理を活用して複雑な確率の問題解決に積極的に取り組もうとする。<br>・条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。<br>・条件付き確率の考えを利用して両辺の確率が考えられることに興味をもち | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 8        |
| 11月 | 第3章 整数の性質   | 第1節 約数と倍数<br>・約数・倍数の意味を理解している。<br>・4の倍数の判定法から類推して、8の倍数の判定法を見いだす。<br>・ある整数aの倍数はakと表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。<br>・自然数の素因数分解を求めることができる。<br>・平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察することができる。<br>・自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 8        |
| 12月 | 第3章 整数の性質   | 第2節 ユークリッドの互除法<br>・互除法の原理の証明に興味・関心をもつ。<br>・素因数分解をしなくても、互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもつ。<br>・互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。<br>・互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察し、一般にも適用できることに気付く。<br>・互除法を利用して、a, bが互いに素であるとき、 $ax+by=c$ を満たす整数x, yの組を求めることができる。<br>・1次不定方程式、整数解の意味を理解している。<br>・係数が小さい場合の1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。<br>・係数が大きい場合の1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。<br>・整数に関する問題を、1次不定方程式に帰着させることができ、問題を解くことができる。                                                                                                                     | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 5        |

|        | 指導内容                   | 科目「数学A」の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 評価の観点・方法                                              | 予定<br>時数 |
|--------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------|
| 1<br>月 | 第3章 整数の性質<br>第2章 図形の性質 | 第3節 整数の性質の活用<br>・位取り記数法、10進法、2進法、n進法について理解している<br>・n進法の整数を10進法で、10進法の整数をn進法で表すことができる。<br>・n進法の小数を10進法で、10進法の小数をn進法で表すことができる。<br>・2進法の加減乗除ができる。<br>・循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表すことができる。<br>・分数を小数で表したとき、小数第n位の数字を求めることができる。<br>・分数が有限小数で表される条件、循環小数で表される条件を理解している。<br>第1節 平面図形<br>・図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察できる。<br>・三角形の角の二等分線に関する性質を理解し、利用できる。<br>・三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。<br>・三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。<br>・図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法を適用することができる。<br>・三角形の外心、内心、重心に関する性質や相互関係を証明することができる。                                   | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 6        |
| 2<br>月 | 第2章 図形の性質              | 第1節 平面図形<br>・円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。<br>・三角形の外接円は必ず存在するが、三角形以外の場合は必ずしも存在しないことから、四角形が円に内接する条件を考察しようとする。<br>・円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めるたり、円と四角形の様々な性質を証明できる。<br>・四角形が円に内接するための条件を利用して、図形の性質を証明できる。<br>・円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。<br>・円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めたり、図形の性質を証明できる。<br>・接線と弦の作る角についての定理を証明する際に場合分けをしながら考察することができる。<br>・接線と弦の作る角の性質を利用して、角度を求めることができる。<br>・相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。<br>・方べきの定理Iの割線PCDの極限として接線PTを考えた場合が、方べきの定理IIであるとの見方ができる。<br>・方べきの定理を利用して、線分の長さを求めたり、図形の性質を証明することができる。<br>・方べきの定理の逆を理解し、それを用いて図形の性質を証明することができる。 | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 7        |
| 3<br>月 | 第2章 図形の性質              | 第1節 平面図形<br>・2つの円の位置関係を、動的な面から観察することができる。<br>・2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。<br>・2つの円の共通接線の長さを求めることができる。<br>・2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。<br>・数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。<br>・中学校で学んだ垂線の作図を知っている。<br>・平行線と線分の比の性質を利用すると、内分点・外分点が作図できたり、 $b/a$ や $ab$ の長さをもつ線分が作図できることに気付く。<br>・ $\sqrt{a}$ の長さをもつ線分の作図の方法を文章で表現し、得られた図形が確かに条件を満たすことを証明することができる。                                                                                                                                                       | 参加：出席状況等<br>活動：授業への取り組み、<br>提出物等<br>定着：小テスト、<br>定期考査等 | 5        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科:「理科」科目:「生物基礎」 年間授業計画

教科:理科 科目:生物基礎 単位数:2単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(北川:G, E) (石原:A, B, D, F)

使用教科書:(改訂版 生物基礎)

使用教材:(六訂版 スクエア最新図説生物、三訂版リードLightノート生物基礎)

|     | 指導内容                                                                                                                          | 科目「生物基礎」の具体的な指導目標                                                                                                                                                                               | 評価の観点・方法     | 予定<br>時数 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----------|
| 4月  | 第1章 生物の特徴<br>1. 生物の多様性と共通性<br>生物の多様性と共通性の由来, 生物の共通性<br>-生物の基本的な特徴-, 生物の共通構造-細胞-                                               | ・全ての生物は、共通の祖先から進化した結果、多様性と共通性をもつことを理解する。<br>・原核生物と真核生物の存在とその違いを理解する。<br>・生物基礎の学習に必要なので、最低限の細胞小器官として、ミトコンドリア、葉緑体、リボソームの働きが理解できる。                                                                 | 知・技・思 ワークシート | 4        |
| 5月  | 2. エネルギーと代謝<br>生命活動とエネルギー, 代謝と酵素                                                                                              | ・ATPとADPの関係を理解し、ATPが生物共通のエネルギー物質であることが理解できる。<br>・代謝において、触媒として酵素が関係していることを説明できる。                                                                                                                 | 知・技・思 ワークシート | 5        |
| 6月  | 第2章 遺伝子とのはたらき<br>1. 遺伝情報とDNA<br>遺伝情報を担う物質-DNA, DNAの構造<br>2. 遺伝情報の発現<br>遺伝情報とタンパク質, RNAのはたらき, タンパク質の合成                         | ・DNAが全ての生物がもつ遺伝子の本体であることを知る。<br>・DNAは二重らせん構造であることを知る。<br>・転写と翻訳の過程を理解している。                                                                                                                      | 知・技・思 ワークシート | 8        |
| 7月  | 3. 遺伝情報の分配<br>染色体とDNAの遺伝情報, 細胞分裂と遺伝情報の分配, 分化した細胞の遺伝情報, DNAの遺伝情報と遺伝子, ゲノム                                                      | ・ゲノムとは何かを知る。<br>・分裂を繰り返す体細胞では、体細胞分裂の間期と分裂期が交互に繰り返され、間期にDNAの複製が行われることを知る。<br>・染色体の構造について理解する。<br>・細胞分裂時に染色体が分離することで、DNAが均等に娘細胞に分配されることを知る。<br>・細胞のもつ遺伝子は同一だが、細胞によって働いている遺伝子が異なることを知る。            | 知・技・思 ワークシート | 3        |
| 9月  | 第3章 生物の体内環境<br>1. 体液という体内環境<br>体内環境と恒常性, 体液とその循環, 血液の凝固と線溶, 体液の組成と生命活動<br>2. 腎臓と肝臓<br>腎臓と肝臓の役割, 腎臓のはたらき, 肝臓のはたらき, 腎臓と肝臓の分業と協働 | ・血液・リンパ液・組織液は常に移動・循環し、互いに関係していることを理解する。<br>・体内環境が一定の状態に保たれることによりホメオスタシスが維持されることを理解する。<br>・肝臓・腎臓の構造と機能について理解する。<br>・血液の生成場所、各血球と血しょうの働きについて理解する。<br>・血液の体循環・肺循環について理解する。<br>・血液凝固反応の仕組みについて理解する。 | 知・技・思 ワークシート | 5        |
| 10月 | 3. 神経とホルモンによる調節<br>神経による調節-自律神経系、ホルモンによる調節-内分泌系、自律神経とホルモンによる調節                                                                | ・交感神経・副交感神経の特徴について理解する。<br>・ホルモンの特徴について理解する。代表的なホルモンの名称、内分泌腺、働きについて理解する。<br>・自律神経系と内分泌系(ホルモン)がともに働くことによって、血糖濃度が調節されていることを理解する。                                                                  | 知・技・思 ワークシート | 7        |
| 11月 | 4. 免疫<br>免疫とは、物理的・化学的防御、自然免疫、獲得免疫、免疫と病気                                                                                       | ・マクロファージやリンパ球などの免疫に関わる細胞とその働きについて理解する。<br>・体液性免疫と細胞性免疫について理解する。<br>・予防接種や血清療法の仕組みについて理解する。<br>・アレルギーやエイズ発症と関わる免疫系の細胞を挙げることができる。                                                                 | 知・技・思 ワークシート | 8        |
| 12月 | 第4章 植生の多様性と分布<br>1. さまざまな植生<br>植生とその成り立ち, さまざまな植生-森林・草原・荒原-                                                                   | ・火山噴火後の裸地から草原を経て森林に至る遷移のモデル的過程を知る。<br>・植生の変化に伴い、環境も変化していくことを知る。                                                                                                                                 | 知・技・思 ワークシート | 4        |
| 1月  | 3. 気候とバイオーム<br>気候とバイオーム, 世界のバイオームとその分布, 日本のバイオームとその分布                                                                         | ・バイオームの意味を知る。<br>・植物を基盤とした世界の代表的なバイオームの名前をあげることができる。                                                                                                                                            | 知・技・思 ワークシート | 5        |
| 2月  | 1. 生態系<br>生態系の成り立ち, さまざまな生態系, 生態ピラミッド<br>2. 物質循環とエネルギーの流れ<br>炭素の循環とエネルギーの流れ, 窒素の循環                                            | ・生態系では、光合成・呼吸・食物連鎖・有機物の分解作用などの生命活動によって炭素や窒素が循環し、再利用されていることを理解する。<br>・生態系で生物が利用するエネルギーの大部分は、太陽の光エネルギーに由来することを理解する。                                                                               | 知・技・思 ワークシート | 7        |
| 3月  | 3. 生態系のバランス<br>生態系のバランス<br>4. 人間活動と生態系の保全<br>外来生物の移入, 森林の過度の伐採, 生物濃縮, 生態系の保全                                                  | ・人間の活動が環境の変化をもたらし、生態系に大きな影響を与えていることを理解する。                                                                                                                                                       | 知・技・思 ワークシート | 3        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科:「保健体育」科目:「体育」 年間授業計画

教科:保健体育 科目:体育 単位数:2単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(平井:A.B.C.D.E.F)(藤井:A.B.C.D.E.F)(村上:A.B.C.D.E.F)

使用教科書:(ステップアップ高校スポーツ(大修館))

使用教材:()

|     | 指導内容                                                                    | 科目「体育」の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                      | 評価の観点・方法                                              | 予定<br>時数 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------|
| 4月  | オリエンテーション<br>集団行動<br>体づくり運動<br>陸上競技(ハードル走、投種目)<br>体育祭練習                 | ・体育に意欲的に取り組む態度を養う。<br>・様々な体ほぐしの運動を組み合わせで行い、関節や筋肉の動きに合った運動の行い方を理解させる。<br>・陸上種目において、体の使い方を知り、記録向上に向けて意欲的に取り組む。                                                                                                                         | 取り組み状況をみる。<br>スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。 | 4        |
| 5月  | オリエンテーション<br>集団行動<br>体づくり運動<br>陸上競技(ハードル走、投種目)<br>体育祭練習                 | ・体育に意欲的に取り組む態度を養う。<br>・様々な体ほぐしの運動を組み合わせで行い、関節や筋肉の動きに合った運動の行い方を理解させる。<br>・陸上種目において、体の使い方を知り、記録向上に向けて意欲的に取り組む。                                                                                                                         | 取り組み状況をみる。<br>スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。 | 5        |
| 6月  | 体育理論<br>水泳                                                              | ・スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について意見を交換したり、自分の意見を発表したりするなどの活動を通して、学習に自主的取り組み姿勢を養う。<br>・4泳法に取り組む。習熟に応じて、自己の課題を見つけ、課題解決に向け取り組み、より長く・より速く泳ぐことができるようにさせる。                                                                                     | スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。               | 8        |
| 7月  | 体育理論<br>水泳                                                              | ・スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について意見を交換したり、自分の意見を発表したりするなどの活動を通して、学習に自主的取り組み姿勢を養う。<br>・4泳法に取り組む。習熟に応じて、自己の課題を見つけ、課題解決に向け取り組み、より長く・より速く泳ぐことができるようにさせる。                                                                                     | スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。               | 3        |
| 9月  | 体育理論<br>柔道(男子・女子)<br>剣道(男子・女子)<br><br>バスケットボール(男子・女子)<br>3期間に分け、3種目を行う。 | ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、意見交換やグループワークなどの活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。<br>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、意見交換やグループワークなどの活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。<br>・武道独自の礼法や体さばきを身につけるとともに、他者を尊重して稽古に取り組む姿勢を養う。<br>・バスケットボールの基礎知識を学習するとともに基本技能を習得し、簡易の試合ができるようにさせる。 | スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。               | 4        |
| 10月 | 体育理論<br>柔道(男子・女子)<br>剣道(男子・女子)<br><br>バスケットボール(男子・女子)<br>3期間に分け、3種目を行う。 | ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、意見交換やグループワークなどの活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。<br>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、意見交換やグループワークなどの活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。<br>・武道独自の礼法や体さばきを身につけるとともに、他者を尊重して稽古に取り組む姿勢を養う。<br>・バスケットボールの基礎知識を学習するとともに基本技能を習得し、簡易の試合ができるようにさせる。 | スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。               | 6        |
| 11月 | 体育理論<br>柔道(男子・女子)<br>剣道(男子・女子)<br><br>バスケットボール(男子・女子)<br>3期間に分け、3種目を行う。 | ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、意見交換やグループワークなどの活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。<br>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、意見交換やグループワークなどの活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。<br>・武道独自の礼法や体さばきを身につけるとともに、他者を尊重して稽古に取り組む姿勢を養う。<br>・バスケットボールの基礎知識を学習するとともに基本技能を習得し、簡易の試合ができるようにさせる。 | スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。               | 8        |
| 12月 | 体育理論<br>柔道(男子・女子)<br>剣道(男子・女子)<br><br>バスケットボール(男子・女子)<br>3期間に分け、3種目を行う。 | ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、意見交換やグループワークなどの活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。<br>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、意見交換やグループワークなどの活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。<br>・武道独自の礼法や体さばきを身につけるとともに、他者を尊重して稽古に取り組む姿勢を養う。<br>・バスケットボールの基礎知識を学習するとともに基本技能を習得し、簡易の試合ができるようにさせる。 | スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。               | 5        |
| 1月  | 持久走<br>体育理論                                                             | ・持久走は、短い距離から徐々に長い距離に伸ばし、タイムトライアルに取り組ませる。<br>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、自分の意見をまとめたり、発表したりする活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。                                                                                                                        | スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。               | 5        |
| 2月  | 持久走<br>体育理論                                                             | ・持久走は、短い距離から徐々に長い距離に伸ばし、タイムトライアルに取り組ませる。<br>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、自分の意見をまとめたり、発表したりする活動を通して、学習に主体的に取り組む姿勢を養う。                                                                                                                        | スキルテスト、記録、取り組み、カードの記入状況などを総合的に判断して評価する。               | 5        |
| 3月  |                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                      |                                                       | 4        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科:「保健体育科」科目:「保健」 年間授業計画

教科:保健体育科 科目:保健 単位数:1単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(平井 史子:DF)(酒井 葉月:CE)(丸本 英貴:AB)

使用教科書:(現代高等学校保健体育改訂版)

使用教材:()

|     | 指導内容                                                     | 科目「保健」の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                                                         | 評価の観点・方法                                                               | 予定<br>時数 |
|-----|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4月  | ①オリエンテーション<br>1 現代社会と健康<br>・私たちの健康のすがた                   | ・わが国における健康水準の変化、わが国における健康問題の変化について理解し、説明することができる。                                                                                                                                                                                       | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>などを総合的に評価する。          | 2        |
| 5月  | ・健康のとらえ方<br>・健康と意思決定・行動選択                                | ・健康についての多様な考え方、健康の成り立ちとその要因について理解し、説明することができる。<br>・意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因、健康的な意思決定・行動選択を実現する工夫について理解し、説明することができる。                                                                                                                        | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>などを総合的に評価する。          | 3        |
| 6月  | ・健康に関する環境づくり<br>・生活習慣病とその予防                              | ・健康づくりを支える環境、ヘルスプロモーションに考え方にもとづく環境づくりについて理解し、説明することができる。<br>・生活習慣病についてその呼称の由来や病歴を説明することができ、また、生活習慣病の予防について理解し、説明することができる。                                                                                                               | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>などを総合的に評価する。          | 5        |
| 7月  | ・食事と健康                                                   | ・健康的な食生活の重要性と意義、健康的な食生活習慣の形成について理解し、説明することができる。                                                                                                                                                                                         | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>定期考査<br>などを総合的に評価する。  | 1        |
| 9月  | ・運動と健康の心身の相関とストレス<br>・休養・睡眠と健康<br>・喫煙と健康                 | ・健康から見た運動意義、健康づくりのための運動習慣の形成について理解し、説明することができる。<br>・健康からみた休養・睡眠の意義、健康から見たよりよい休養・睡眠のとり方について理解し説明することができる。<br>・喫煙の健康影響、喫煙開始の要因と依存性、日本と世界のたばこ対策について理解し、説明することができる。                                                                         | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>などを総合的に評価する。          | 2        |
| 10月 | ・飲酒と健康<br>・薬物乱用と健康<br>・現代の感染症                            | ・飲酒による健康への短期的および長期的影響、飲酒の開始要因と社会問題、飲酒による健康被害を防ぐ様々な対策について理解し、説明することができる。<br>・薬物乱用や薬物依存による健康への影響、薬物乱用の開始要因と社会問題、薬物乱用による健康被害を防ぐための様々な対策について理解し、説明することができる。<br>・感染症は、時代や地域によって、社会環境や自然環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを説明できる。                       | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>などを総合的に評価する。          | 3        |
| 11月 | ・感染症の予防<br>・性感染症・エイズとその予防<br>・欲求と適応機制<br>・心身の相関とストレス     | ・感染症予防の原則を理解し、感染症予防のための社会的取り組みと、個人が行う対策について説明できる。<br>・性感染症・エイズについて理解するとともに、予防するための個人・社会がおこなう対策について説明できる。<br>・精神機能が脳で統一的、調和的に営まれていること、また人間にはさまざまな欲求があること、欲求不満に対処するための適応機制について説明することができる。<br>・心身相関のしくみとストレスの原因、ストレスの影響と心の健康について理解・説明ができる。 | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>などを総合的に評価する。          | 4        |
| 12月 | ・ストレスへの対処<br>・心の健康と自己実現                                  | ・ストレスへのさまざまな対処方法について理解し説明できる。<br>・自己実現と心の健康との関係、自己実現の道筋と達成について理解し説明することができる。                                                                                                                                                            | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>定期考査<br>などを総合的に評価する。  | 2        |
| 1月  | ・交通安全現状と要因<br>・交通社会における運転者の資質と責任<br>・安全な交通社会づくり          | ・交通事故の現状とその要因について理解し説明することができる。<br>・安全な運転のための資質、交通事故を起こした場合の責任と補償について理解し、説明することができる。<br>・安全な交通社会づくりのための法的な整備と。設備の充実、車の安全性について理解し説明することができる。                                                                                             | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>などを総合的に評価する。          | 2        |
| 2月  | ・防災・防犯をめざした社会づくり<br>・応急手当の意義とその基本<br>・心肺蘇生法<br>・日常的な応急手当 | ・防災・防犯を目指した社会づくりのための法律や条例、情報伝達の組織的な活動の実施について理解し説明することができる。<br>・応急手当の意義やその手順について理解し説明することができる。<br>・心肺蘇生法の原理と意義、その各手順について理解し説明することができる。<br>・日常的なけがの応急手当、熱中症の応急手当について理解し説明することができる。                                                        | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>などを総合的に評価する。          | 3        |
| 3月  | ・心肺蘇生法を実習しよう                                             | ・ダミーを使って心肺蘇生法を実際に行い、技能を身に付ける。                                                                                                                                                                                                           | 出席状況<br>授業への参加の様子<br>課題プリント<br>実習レポート<br>発表学習<br>学年末考査<br>などを総合的に評価する。 | 2        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科:「芸術」科目:「音楽Ⅰ」 年間授業計画

教科:芸術 科目:音楽Ⅰ 単位数:2単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(吉田:A,B,C,D,E,F(楽典・鑑賞・歌唱・器楽))(田中:A,B,C,D,E,F(楽典・鑑賞・歌唱・器楽))

使用教科書:(高校生の音楽1(教育芸術社))

使用教材:(自作プリント教材)

|     | 指導内容                | 科目「音楽Ⅰ」の具体的な指導目標                                                                                        | 評価の観点・方法                                                     | 予定<br>時数 |
|-----|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|----------|
| 4月  | 楽典・鑑賞<br><br>歌唱・合唱  | ①音符について理解する ②リズムについて理解する<br><br>①身体のリラックスと無理のない発声法 ②若葉総合高校校歌(斉唱) ③「ふるさと」四部合唱(アカペラ合唱の導入)                 | 出席状況、課題への理解と取り組み状況<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況                 | 4        |
| 5月  | 楽典・鑑賞<br><br>歌唱・合唱  | ①音程について理解する ②西洋音楽の鑑賞<br><br>①「ふるさと」混声四部合唱の仕上げ ②「カロミオベン」(イタリア語の発音と歌唱法)                                   | 出席状況、課題への理解と取り組み状況<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況                 | 6        |
| 6月  | 楽典・鑑賞<br><br>歌唱・合唱  | ①和音について理解する ②西洋音楽の鑑賞<br><br>①「カロミオベン」(イタリア語の発音と歌唱法) ②歌唱試験に向けて                                           | 出席状況、課題への理解と取り組み状況<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況                 | 8        |
| 7月  | 楽典・鑑賞<br><br>歌唱・合唱  | ①西洋音楽の鑑賞<br><br>①「カロミオベン」歌唱試験                                                                           | 出席状況、課題への理解と取り組み状況、および実技試験<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況、および実技試験 | 2        |
| 9月  | 楽典・鑑賞<br><br>器楽     | ①ギターについて理解する ②楽器の取り扱いについて理解する ③正しい姿勢と構え方<br><br>①ギター音楽の鑑賞 ②「カントリーロード」(弾き語りへの準備)                         | 出席状況、課題への理解と取り組み状況<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況                 | 4        |
| 10月 | 楽典・鑑賞<br><br>器楽     | ①タブ譜について理解する ②音階の練習<br><br>①「カントリー・ロード」(弾き語りへの準備)                                                       | 出席状況、課題への理解と取り組み状況<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況                 | 6        |
| 11月 | 楽典・鑑賞<br><br>器楽     | ①ギターアンサンブルを鑑賞する<br><br>①「カントリー・ロード」(弾き語りへの準備) ②クリスマスソング                                                 | 出席状況、課題への理解と取り組み状況<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況                 | 8        |
| 12月 | 楽典・鑑賞<br><br>器楽     | ①実技試験<br><br>①クリスマスソングの鑑賞                                                                               | 出席状況、課題への理解と取り組み状況、および実技試験<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況、および実技試験 | 6        |
| 1月  | 楽典・鑑賞<br><br>アンサンブル | ①ギターについて理解する ②正しい姿勢と構え方 ③音階の練習 ④「アメイジング・グレイス」 ⑤「カントリー・ロード」<br><br>①「早春賦」(日本語歌曲に親しむ) ②「野ばら」(ドイツ語の発音と歌唱法) | 出席状況、課題への理解と取り組み状況<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況                 | 4        |
| 2月  | 楽典・鑑賞<br><br>アンサンブル | ①ギターコードについて理解する ②「カントリー・ロード」(弾き語り) ③「イエロー・サブマリン」(弾き語り)<br><br>①「早春賦」(日本語歌曲に親しむ) ②「野ばら」(ドイツ語の発音と歌唱法)     | 出席状況、課題への理解と取り組み状況<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況                 | 4        |
| 3月  | 楽典・鑑賞<br><br>アンサンブル | ①「Let it Be」(弾き語り) ②実技試験<br><br>①「野ばら」 ②実技試験                                                            | 出席状況、課題への理解と取り組み状況、および実技試験<br><br>出席状況、課題への理解と取り組み状況、および実技試験 | 4        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科:「芸術」科目:「美術Ⅰ」 年間授業計画

教科:芸術 科目:美術Ⅰ 単位数:2単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(山縣一徳)

使用教科書:(高校生の美術1)

使用教材:()

|     | 指導内容                  | 科目「美術Ⅰ」の具体的な指導目標                                                              | 評価の観点・方法                | 予定<br>時数 |
|-----|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|----------|
| 4月  | オリエンテーション<br>明度<br>素描 | 美術Ⅰの授業における心構え<br>教科書を毎回読み進めることで作品鑑賞を深める<br>グレースケール作成で明度について理解する<br>自分の手を正確に描く | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 2        |
| 5月  | 素描<br>色彩の3属性          | 自分自身を正確に描く<br>描写力の向上を図る<br>明度・彩度・色相の対比を作成し3属性を理解させる                           | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 6        |
| 6月  | 基礎的な平面構成              | モノクロームとカラーで明度を合わせる基礎的な平面構成を作成<br>色彩の3属性を定着させる                                 | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 8        |
| 7月  | 基礎的な平面構成              | モノクロームとカラーで明度を合わせる基礎的な平面構成を作成<br>色彩の3属性を定着させる                                 | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 2        |
| 9月  | 抽象表現                  | 味覚を題材とし基礎的な抽象表現作品を制作<br>抽象表現について考える                                           | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 4        |
| 10月 | 抽象表現                  | 味覚を題材とし基礎的な抽象表現作品を制作<br>抽象表現について考える                                           | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 6        |
| 11月 | レタリング                 | アルファベットをデザインし彩色<br>文字のデザインについて理解                                              | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 8        |
| 12月 | レタリング                 | アルファベットをデザインし彩色<br>文字のデザインについて理解                                              | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 7        |
| 1月  | 基礎的な静物画               | りんごをモチーフに鉛筆デッサン                                                               | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 2        |
| 2月  | 基礎的な静物画               | りんごをモチーフに不透明水彩による作品制作<br>基礎的な絵画作品を描く                                          | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 6        |
| 3月  | 基礎的な静物画               | りんごをモチーフに不透明水彩による作品制作<br>基礎的な絵画作品を描く                                          | 出席状況・取り組み<br>作品の完成度、提出物 | 6        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成30年度 教科:「外国語(英語)科」科目:「コミュニケーション英語Ⅰ」 年間授業計画

教科:外国語(英語)科 科目:コミュニケーション英語Ⅰ 単位数:5単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(島谷:B・D・F、A前半・C後半)(徳田:A・C・E、D後半・F後半)(馬場:B後半)(登坂:A後半・D前半・E前半)(竹下:B前半・C前半・

使用教科書:(Grove English CommunicationⅠ)

使用教材:(Be Base Builder Start up! 1,2,3)

|     | 指導内容                                                                                                                   | 科目「コミュニケーション英語Ⅰ」の具体的な指導目標                                          | 評価の観点・方法                                              | 予定<br>時数 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------|
| 4月  | Lesson1 Omoitenashi: The Spirit of Japan<br>語順、名詞・代名詞<br>【be Base Builder Start up! 1,2,3:<br>Lesson1～Lesson4】         | 時制、主部と述部を理解して、本文内容を読み取る。<br>自動詞と他動詞の違い、文型、名詞・代名詞の働きを理解する。          | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 9        |
| 5月  | Lesson1 Omoitenashi: The Spirit of Japan<br>語順、名詞・代名詞<br>【be Base Builder Start up! 1,2,3:<br>Lesson1～Lesson4】         | 時制、主部と述部を理解して、本文内容を読み取る。<br>自動詞と他動詞の違い、文型、名詞・代名詞の働きを理解する。          | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 14       |
| 6月  | Lesson3 The Bento Goes International<br>動詞、形容詞・副詞、前置詞、接続詞、否定文・疑問文、品詞<br>【be Base Builder Start up! 1,2,3<br>Lesson5～9】 | 進行形を理解して、本文を読み取る。<br>それぞれの品詞の働きや、否定文・疑問文の作り方を理解する。                 | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 13       |
| 7月  | Lesson3 The Bento Goes International<br>動詞、形容詞・副詞、前置詞、否定文・疑問文、品詞<br>【be Base Builder Start up! 1,2,3<br>Lesson5～9】     | 進行形を理解して、本文を読み取る。<br>動詞を含めた品詞の働きや、否定文・疑問文の作り方を理解する。                | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 8        |
| 9月  | Lesson4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship<br>動詞、be動詞以外の動詞、動詞の活用、現在完了形                                               | 現在完了形、過去完了形を理解して、本文を読み取る。<br>動詞が主語や時制によって変化することを理解する。              | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 12       |
| 10月 | Lesson4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship<br>動詞、be動詞以外の動詞、動詞の活用、現在完了形                                               | 現在完了形、過去完了形を理解して、本文を読み取る。<br>動詞が主語や時制によって変化することを理解する。              | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 17       |
| 11月 | Lesson7 The Netherlands-Living with Water<br>助動詞、受動態、動名詞・不定詞                                                           | 比較、<It is ～for人 to動詞の原形>を理解して、本文を読み取る。<br>助動詞・受動態・動名詞・不定詞について理解する。 | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 21       |
| 12月 | Lesson7 The Netherlands-Living with Water<br>助動詞、受動態、動名詞・不定詞                                                           | 比較、<It is ～for人 to動詞の原形>を理解して、本文を読み取る。<br>助動詞・受動態・動名詞・不定詞について理解する。 | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 12       |
| 1月  | Lesson10 One Child, One Teacher, One Book and One Pen<br>分詞、関係代名詞、比較                                                   | 仮定法過去完了、分詞構文、強調構文を理解して、本文を読み取る。<br>分詞・関係代名詞・比較について理解する。            | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 12       |
| 2月  | Lesson10 One Child, One Teacher, One Book and One Pen<br>分詞、関係代名詞、比較                                                   | 仮定法過去完了、分詞構文、強調構文を理解して、本文を読み取る。<br>分詞・関係代名詞・比較について理解する。            | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 15       |
| 3月  | Lesson10 One Child, One Teacher, One Book and One Pen<br>分詞、関係代名詞、比較                                                   | 仮定法過去完了、分詞構文、強調構文を理解して、本文を読み取る。<br>分詞・関係代名詞・比較について理解する。            | 参加:提出物、質問、発言等<br>活動:問題演習や活動での<br>積極性<br>定着:小テストの実施と評価 | 9        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科：「家庭」 科目：「家庭基礎」 年間授業計画

教科：家庭 科目：家庭基礎 単位数：2単位

対象学年組：（第1学年A組～F組）

教科担当者：（白川：A, B, D, F）（戸館：C, E）

使用教科書：（新家庭基礎（教育図書））

使用教材：（2019 生活学Navi（実教出版））

|     | 指導内容                                                                                           | 科目「家庭基礎」の具体的な指導目標                                                                                                                                                        | 評価の観点・方法                     | 予定<br>時数 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|----------|
| 4月  | 第5章 衣生活<br>衣服の機能・人の一生と衣服<br>衣服材料の種類                                                            | ○保健衛生上の機能・社会生活上の機能とは何かを理解する。<br>○T、P、O、を意識した衣服の着用について考察する。<br>○衣服材料の種類と用途について知る。                                                                                         | 思・知・関<br>観察・ワークシート           | 2        |
| 5月  | 衣服材料の性能<br>衣服の購入と選択<br>衣服の手入れ<br>衣服の保管<br><br>被服の製作                                            | ○取扱説明表示の記号の意味を知る。<br>○衣服の安全性について理解を深める。<br>○JIS表示と新JIS表示について理解する。<br>○汚れの落ちる仕組みを知る。<br>○洗剤の種類と用途と特徴を知る。<br>○小物製作を通して、被服材料の性質の理解を深め、生活に必要な被服に関する技能を身に着ける。                 | 思・知・関・技<br>観察・ワークシート<br>実習作品 | 4        |
| 6月  | 被服の製作<br>衣服と環境<br><br>第6章 住生活<br>住まいの役割<br>住まいと環境<br>将来の家の設計                                   | ○小物製作を通して、被服材料の性質の理解を深め、生活に必要な被服に関する技能を身に着ける。<br>○衣服と環境との関わりについて考察する。<br><br>○住まいの役割について考察する。<br>○快適な住まいについて、理解を深める。<br>○20年後の住まいの設計をする。                                 | 思・知・関・技<br>観察・ワークシート<br>実習作品 | 8        |
| 7月  | 1学期末考査<br><br>一人暮らしの部屋探し<br><br>ホームプロジェクト                                                      | ○1学期の内容（衣生活・住生活）のまとめを行う。<br><br>○一人暮らしをする際の部屋探しに必要な条件を理解する。<br><br>○生活上の課題を設定し、解決方法を考え、夏季休業中に計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決能力を養う。                                   | 思・知・関・技<br>観察・ワークシート         | 4        |
| 9月  | ホームプロジェクト<br>第7章 消費生活・環境<br>消費生活について<br>家庭経済について                                               | 夏季休業中の課題を発表し、考察する。<br>○契約と消費生活について理解する。<br>○消費者問題の現状と課題について考察する。<br>○家計の仕組みと計画的管理について考察する。                                                                               | 思・知・関<br>観察・ワークシート<br>レポート   | 5        |
| 10月 | 第4章 食生活<br>食文化の継承<br>現代の食生活の課題<br>栄養素について<br>調理方法について<br>第1回調理実習                               | ○行事食などについて理解を深める。<br>○食生活の現状について理解し、今後の課題について考察する。<br>○5大栄養素の働きについて知り、日常生活に活用する。<br>○調理の基本について知識と技術を身に付ける。<br>○第1回調理実習を実施し、1食分の献立作成と片付け、栄養計算ができるようになる。                   | 思・知・関・技<br>観察・ワークシート         | 6        |
| 11月 | 食事摂取基準について<br>食品群別摂取量のめやすについて<br>第2回調理実習<br>食品の選択                                              | ○自分の食事摂取基準・食品群別摂取量のめやすを知り、日常生活に活用する。<br>○第2回調理実習を実施し、1食分の献立作成と片付け、栄養計算を行う。<br>○食品の表示について知り、適切な食品が選択できる。                                                                  | 思・知・関・技<br>観察・ワークシート         | 9        |
| 12月 | 2学期末考査<br><br>食品の安全性について                                                                       | ○2学期の内容（消費生活・食生活）のまとめを行う。<br><br>○食品添加物・食中毒等について知り、食品の安全性について考察する。                                                                                                       | 思・知・関<br>観察・ワークシート           | 3        |
| 1月  | 第1章 青年期と家族<br>人の一生と青年期の自立<br>家族の役割<br>家族の機能<br>社会の中の家族<br>法律の中の家族<br><br>第2章 保育<br>子どもの成長を見つめる | ○生涯発達の見点から、ライフステージの特徴と課題について理解する。<br>○男女が協力して家庭を築くことの意義を理解する。<br>○歴史的、文化的、社会的変化との関連で家族・家庭の特徴を理解する。<br>○法律と家族生活との関わりを理解し考察する。<br><br>○子どもの誕生について知る。<br>○子どもの成長について理解を深める。 | 思・知・関<br>観察・ワークシート           | 7        |
| 2月  | 発育と発達について<br>親の役割について<br>生活習慣について<br>子どもの健康と安全を守る<br>子どもと遊びの関わりについて                            | ○発育と発達について考察する。<br>○親の役割と社会の関わりについて理解する。<br>○生活習慣の獲得について考える。<br>○子どもに多い病気とその対処法を知る。<br>○子どもに多い事故とその予防法を知る。<br>○子どもの発達における遊びの重要性について理解する。                                 | 思・知・関<br>観察・ワークシート           | 6        |
| 3月  | 学年末考査<br><br>子育ての現状と課題                                                                         | ○3学期の内容（保育）のまとめを行う。<br><br>○子育ての現状を理解し、今後の課題について考察する。                                                                                                                    | 思・知・関<br>観察・ワークシート           | 3        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科:「情報」科目:「社会と情報」 年間授業計画

教科:情報 科目:社会と情報 単位数:2単位

対象学年組:(第1学年A組～F組)

教科担当者:(坂野、緒方:A)(緒方、坂野:B)(坂野、緒方:C)(緒方、坂野:D)(坂野、緒方:E)(緒方、坂野:F)

使用教科書:(最新社会と情報(数研出版))

使用教材:(基礎からはじめる情報リテラシー)

|     | 指導内容                                                                                                          | 科目「社会と情報」の具体的な指導目標                                                                                                                                                                                               | 評価の観点・方法                                                                | 予定<br>時数 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4月  | ・社会と情報ガイダンス・第1パソコン室利用ガイダンス<br>・情報セキュリティについて                                                                   | ・利用する機器の把握、パソコンの起動方法・パスワード設定ができる。<br>・情報セキュリティについて学習する。                                                                                                                                                          | パスワード実技<br>ワークシート                                                       | 2        |
| 5月  | ・情報とは何か・ドライブについて<br>・情報モラル1<br>・情報モラル2<br>・情報モラル3<br>・アプリケーションの利用1<br>・アプリケーションの利用2<br>・インターネット1<br>・インターネット2 | ・情報とは何かについて考える。<br>・P Cのドライブについて理解し、使いこなせるようにする。<br>・情報社会が人に及ぼす影響、ネットトラブル、ネット詐欺について理解する。<br>・LINE、ツイッター等のSNSトラブルをグループ学習する。<br>・ワープロの利用(Word)の技能(文書作成)について学習する。<br>・ネットワークのしくみを学び、インターネット検索を通して正しい情報を収集する力を身に付ける。 | 小テスト(CBT)<br>ワークシート(グループ学習、インターネット検索)<br>文書制作(Word)<br>定期考査(CBT)        | 4        |
| 6月  | ・情報モラル4<br>・アプリケーションの利用3<br>・アプリケーションの利用4<br>・アプリケーションの利用5<br>・プレゼンテーション準備<br>・期末考査(授業内実施)                    | ・ネット詐欺、コンピュータウイルスについて脅威や対策について学習する。<br>・スライド作成(PowerPoint)の技能について学習する。<br>・第1回プレゼン大会のための準備を行い、スライド制作、台本制作をする。<br>・期末考査をパソコンを使ってテストを受験する。(CBT)                                                                    | スライド作品<br>定期考査(CBT)                                                     | 6        |
| 7月  | ・プレゼンテーション準備<br>・第1回プレゼン大会                                                                                    | ・第1回プレゼン大会のための準備を行い、スライド制作、台本制作をする。<br>・第1回プレゼン大会で一人1分で発表する。                                                                                                                                                     | 発表<br>スライド作品・台本作品                                                       | 2        |
| 9月  | ・情報モラルと著作権<br>・コンピュータの構成<br>・エクセル実習1<br>・エクセル実習2<br>・エクセル実習3                                                  | ・情報を守るために著作権と知的所有権について基礎的な知識を学習する。<br>・コンピュータのしくみ、様々な補助記憶装置、アナログとデジタル、情報のデジタル表現、文字のデジタル化、情報のデジタル表現、2進数と10進数について学習する。<br>・エクセルの技能(文字の入力、フォント、数式の計算)を副教材や課題実習を通して学習して身に付ける。                                        | 小テスト(3回実施)<br>エクセル作品<br>ワークシート(著作権)                                     | 8        |
| 10月 | ・コンピュータの構成<br>・エクセル実習4<br>・ワード実習(ワープロソフトで情報発信)                                                                | ・データの記憶容量と通信速度について学習する。<br>・エクセルの技能(グラフの作成)を副教材や課題実習を通して学習して身に付ける。また、課題実習を行い、エクセルの技能が身に付けているかを確認する。<br>・Wordを使って、自分自身の2年次時間割を中学生に広告できるように作成する。                                                                   | 小テスト(1回実施)<br>エクセル作品<br>ワード作品(時間割広告)                                    | 6        |
| 11月 | ・アプリケーションの利用6<br>・アプリケーションの利用7<br>・プレゼンテーション準備<br>・期末考査(CBT)                                                  | ・スライド制作(PowerPoint)の機能を応用して、アニメーション設定、画面切り替え設定、画像貼り付け、著作権表示について学習する。<br>・第2回プレゼン大会に向けた準備をし、スライド制作、台本制作を行う。<br>・期末考査をパソコンを使ってテストを受験する。(CBT)                                                                       | スライド作品<br>定期考査(CBT)                                                     | 8        |
| 12月 | ・プレゼンテーション準備<br>・第2回プレゼン大会                                                                                    | ・第2回プレゼン大会に向けた準備をし、スライド制作、台本制作を行う。<br>・第2回プレゼン大会で一人1分で発表する。                                                                                                                                                      | 発表<br>スライド作品・台本作品                                                       | 4        |
| 1月  | ・エクセル実習5<br>・総合実習                                                                                             | ・適切なグラフの作り方を学習し、インターネットの情報を収集し、分析できるようにする。<br>・総合実習の意義を学び、それぞれテーマを決める。<br>・決めたテーマにより計画を立てて、情報を収集していく。<br>・調べた情報からスライド制作、第3回プレゼン大会に向けてスライド制作、台本制作に取り組み、第3回プレゼン大会に向けて準備する。                                         | エクセル作品<br>ワークシート(総合実習)<br>実習の制作状況・態度                                    | 8        |
| 2月  | ・総合実習<br>・学年末考査                                                                                               | ・総合実習の意義を学び、それぞれテーマを決める。<br>・決めたテーマにより計画を立てて、情報を収集していく。<br>・調べた情報からスライド制作、第3回プレゼン大会に向けてスライド制作、台本制作に取り組み、第3回プレゼン大会で一人2分発表し相互評価する。                                                                                 | スライド作品・台本作品<br>実習の制作状況・態度<br>ワークシート(総合実習)<br>まとめレポート(総合実習)<br>定期考査(CBT) | 6        |
| 3月  | ・総合実習<br>・第3回プレゼン大会                                                                                           | ・第3回プレゼン大会で一人2分発表し相互評価する。<br>・調査内容についてレポートにまとめて提出する。                                                                                                                                                             | 発表<br>スライド作品・台本作品                                                       | 4        |

## 東京都立若葉総合高等学校 平成31年度 教科：「その他」科目：「産業社会と人間」 年間授業計画

教科：その他 科目：産業社会と人間 単位数：2単位

対象学年組：（第1学年A組～F組）

教科担当者：（丸本英貴 白川桃子：A）（中村真希 島谷俊行：B）（吉田和美 徳田貴正：C）（喜久川博一 依田詩織：D）（玉城南海 高橋洋樹：E）（石原潮

使用教科書：〇

使用教材：（産社ノート（本校作成））

|     | 指導内容                  | 科目「産業社会と人間」の具体的な指導目標                                      | 評価の観点・方法                                                                                                          | 予定<br>時数 |
|-----|-----------------------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4月  | 産社の目標を知る<br>自己理解、他者理解 | オリエンテーション<br>ファーストインプレッション<br>グループでの合意形成について学ぶ            | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、課題などの提出、研究発表を重視する。     | 2        |
| 5月  | 職業レディネステスト<br>職業研究①   | 職業レディネステスト<br>職業調べ                                        | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、課題などの提出、研究発表を重視する。     | 4        |
| 6月  | 職業研究②<br>進路探求         | 職業の目指し方研究<br>科目選択への招待<br>科目選択ガイダンス                        | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、休業中の課題などの提出、研究発表を重視する。 | 8        |
| 7月  | 進路探求                  | 科目選択ガイダンス<br>科目選択相談                                       | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、休業中の課題などの提出、研究発表を重視する。 | 4        |
| 9月  | 他者の生き方から学ぶ①           | 自信の要約と感想                                                  | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、課題などの提出、研究発表を重視する。     | 8        |
| 10月 | 上級学校研究                | オープンキャンパスの見方生かし方<br>上級学校研究<br>上級学校訪問<br>上級学校訪問レポート作成および発表 | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、課題などの提出、研究発表を重視する。     | 6        |
| 11月 | 他者の生き方から学ぶ②           | 他者のキャリアから学ぶ<br>職業人講話および振り返り                               | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、課題などの提出、研究発表を重視する。     | 8        |
| 12月 | 他者の生き方から学ぶ③           | 他者の生き方から自己の生き方を考える                                        | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、課題などの提出、研究発表を重視する。     | 4        |
| 1月  | マイライフプラン              | 「マイライフプラン」テーマ設定<br>「マイライフプラン」発表準備                         | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、課題などの提出、研究発表を重視する。     | 6        |
| 2月  | 産社発表会に向けて             | 「マイライフプラン」発表準備<br>産社発表会（クラス内発表）                           | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、課題などの提出、研究発表を重視する。     | 8        |
| 3月  | 産社発表会に向けて             | 産社発表会（代表者発表）<br>産社振り返り                                    | 参加：授業および校外活動における出席状況を重視する。<br>活動：授業や校外の個々の活動・グループ活動のあらゆる面からその意欲を評価する。<br>定着：毎回のワークシート、レポート、休業中の課題などの提出、研究発表を重視する。 | 2        |